

## 事例2 制服を通して被服に関する理解を深め、主体的に衣生活を営む態度を育む指導の工夫

### 1 ねらい

これまでの指導において、衣生活分野の学習を終えても、衣生活に対する意識が大きく変わったという様子は見られない生徒が多かった。例えば、日々の制服の着装面では自分さえよければいいといった意識のままであり、管理面では人任せ（親任せ）の意識のままであった。この原因は、これまでの指導が衣生活に関する知識を与えるだけになってしまい、実際の生活の中に生かしていこうという意識をもたせるところまで至らなかったのではないかと考えた。

そこで本事例では、「家庭総合」における衣生活分野の調査研究を行った。制服という生徒にとって最も身近な題材を用いて、生徒自身に主体的に衣生活を営むことについて考えさせた。そのために、制服と関連付けながら、被服の機能、着装、被服管理について被服材料や被服構成と関わらせながら理解させた。そして、自分の意見をまとめて発言する活動やグループワークの中で他者の考えを聞き意見を集約して発表する活動を行い、被服に関する理解を深め、自ら納得した上で衣生活を営む態度を育むことを目指した。

### 2 授業実践

単元名：衣生活をつくる

(1) 単元の指導内容 使用教科書（「家庭総合 生活に豊かさをもとめて 改訂版」第一学習社）

- ・世界と日本の制服を比較することで、衣生活の文化に関心をもたせる。
- ・制服を題材にグループ活動を通して、衣生活の課題や着装について考えさせる。
- ・制服を題材に、着装、被服材料、被服の構成、被服管理などについて理解させる。
- ・適切な被服管理ができるようにする。

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・着装、被服材料、被服の構成、被服管理などの衣生活の科学と文化に関心をもって、学習に取り組もうとしている。	・着装、被服材料、被服の構成、被服管理などについて課題を見だし、自分の考えを分かりやすくまとめたり、発表したりしている。	・主体的に衣生活を営むために必要な情報を収集・整理することができる。 ・被服の入手、洗濯、保管などの衣生活の管理ができる。	・着装、被服材料、被服の構成、被服管理などについて、科学的に理解している。 ・安全と環境に配慮した衣生活について理解している。

(3) 単元の指導計画（9時間）

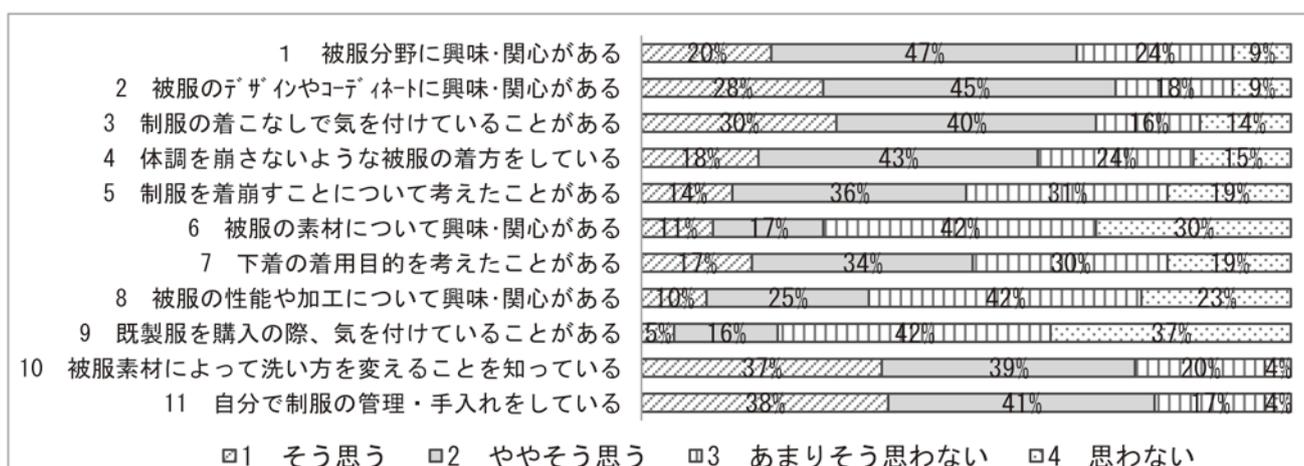
時間	学習内容	評価					評価方法
		関	思	技	知	評価規準	
1	制服を調べる			○		・制服の取り扱い絵表示から情報を収集・整理することができる。	ワークシート 行動観察

2	人と衣生活		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>世界と日本の制服と比較することにより、日本の制服の特徴について考え、まとめたり、発表したりしている。</li> <li>年中行事や冠婚葬祭などの場での青年期の着装的な在り方について具体的に考えている。</li> </ul>	ワークシート 行動観察 発言
3 ・ 4	衣生活の課題をめぐって		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>被服の流行の仕組みを理解している。</li> <li>制服は流行に左右されるのかを考え、発表している。</li> <li>衣生活の健康と安全について考え、まとめている。</li> <li>資源・環境と衣生活との関わりを踏まえて、被服計画の必要性を理解している。</li> </ul>	ワークシート 行動観察 発表
5	生活のなかの被服の役割		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>被服の社会的機能を踏まえて、制服の着装的な在り方について考え、班で意見をまとめたり、発表したりしている。</li> <li>高校生の着装的な関心をもって学習に取り組もうとしている。</li> </ul>	ワークシート 行動観察 発表
6	被服材料			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>制服を題材に、さまざまな繊維の特徴や織りの特徴を確認し理解している。</li> <li>混紡の特徴を制服から具体的に理解している。</li> </ul>	ワークシート 行動観察 発言
7	被服材料の性能			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>下着を題材に、被服材料の性能について理解している。</li> <li>制服を題材に、被服に施される加工について調べ、整理することができる。</li> </ul>	ワークシート 行動観察 発言
8	被服の選び方			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>制服の取り扱い絵表示を確認し、品質表示について理解している。</li> <li>被服材料に応じた被服の整理や適切な衣生活の管理について考えようとしている。</li> </ul>	ワークシート 行動観察 発言
9	被服の手入れ			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>洗剤の働きと汚れが落ちる仕組み、湿式洗濯と乾式洗濯の特徴を科学的に理解している。</li> <li>洗濯・保管などの衣生活の管理ができる。</li> </ul>	ワークシート 行動観察 発言 アンケート

#### (4) 事前アンケートの実施

単元開始前に衣生活分野に関する興味・関心と日常の行動についてのアンケート調査を行い、その実態を把握した【図1】。対象は第1学年の生徒79名である。

調査から67%の生徒が「被服分野に興味・関心がある」ことが分かり(質問1)、「被服の素材」「加工・性能」「既製服の購入」に関しては、興味・関心が低い生徒が多いことが分かった(質問6、8、9)。「着装的な」に関わる「制服の着こなし」については70%の生徒が意識しており、「制服を着崩すこと」については50%の生徒が意識していないことが分かった(質問3、5)。



【図1】衣生活に関する興味・関心と日常の行動

(5) 授業の概要

第1学年を対象に授業実践を行った。本事例では、特にグループワークに力を入れた3～5時間目を報告する。身近な被服である制服を通して、青年期の着装について主体的に考えさせ、意見をまとめて発言させる活動を行った。その際、グループワークを通して他者の考えを聞き多様な意見を集約し発表する活動を取り入れた。これらの活動を通して、青年期の着装について自分なりの考えをもち、理解を深め、納得した上で被服を適切に着こなそうとする態度を育むことをねらいとした。

教員は、ファシリテーターとして授業を進行した。ファシリテーターとは「促進者」のことで、個々のもつ意見や感情、個性などを引き出し、生徒自身の気づきを促す存在である。教員の考える「答え」に導いたりするのではなく、生徒が主体的に考えを深められるような関わり方を実践した。そのために、生徒に対して助言をすべきか、見守るべきかを適切に判断する必要があった。また、生徒の思考を深めやすい環境を作ることも心掛けた。

3～5時間目を実施するに当たり、クラスを10班に分け、4名程度のグループで活動をさせた。

ア 3・4時間目の授業 【ワークシートの工夫】【言葉や概念などを用いて考察させる活動】

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	○本時の学習内容を把握する。	
展開	○被服の流行の仕組みについて理解する。 <b>テーマ「制服には流行があるのか」</b> ・制服と普段着を比較し、制服は流行に左右されるか話し合う。 (グループワーク) ○衣生活の健康と安全について考える。 <b>テーマ「衣服圧が骨格や内臓に与える影響」</b> <b>テーマ「制服を着崩すことによって起こり得る健康障害」</b>	○今、着てみたい普段着を絵で描かせ、それをもとに被服の流行の仕組みについて理解させる。 ○机間指導を行い、意見が出ていないグループには助言をする。また、できるだけ数多く書き出すよう促す。 ○付箋を用いることで、班員全員に発言の場を与え、積極的に話し合いに参加させる。 ○机間指導を行い、意見が出ていないグループには助言をする。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋を使って意見を出す。</li> <li>・班で意見をまとめて発表する。 (グループワーク)</li> </ul> <p>○資源・環境と衣生活との関わりについて考える。</p> <p>テーマ「不要になった制服はどのように活用できるか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自で考えをまとめる。</li> </ul>	<p>○不要衣類の有効活用として、制服はどのように活用できるかを個人で考えさせる。その際、日本で古くから行われていた着古した木綿の着物の活用例を挙げる。</p>
まとめ	○次時の学習内容の概要をつかむ	

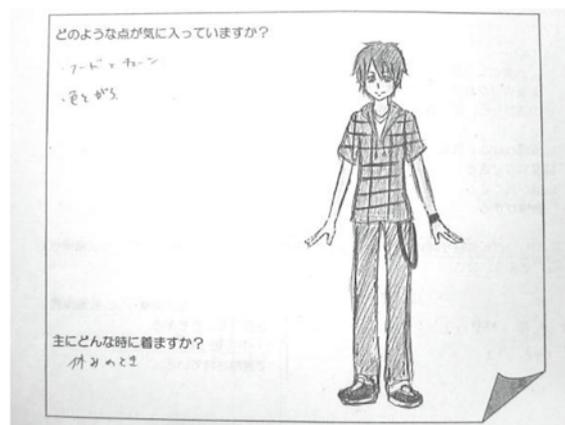
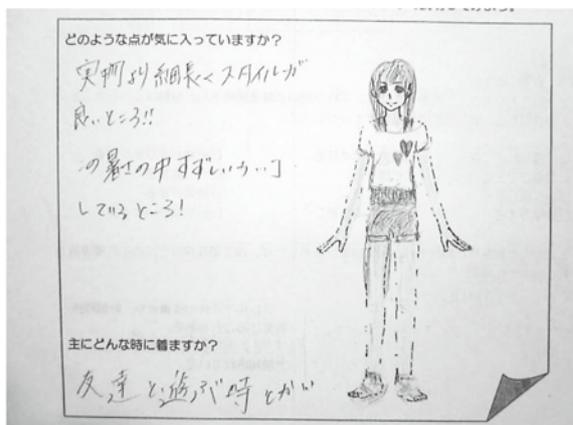
3時間目には、「被服の流行の仕組み」を扱った。ここでは生徒が絵や文字で表現しやすいようにワークシートを工夫した。また、テーマを設定して、言葉や概念などを用いて考察させる活動を行った。生徒の活動は、以下の2点である。

(ア) 自分が着てみたい普段着をワークシートに描く【資料1】。

現在流行している服を描き、色付けをして表現した。できあがった作品を、グループ内の生徒同士で確認し感想を述べ合った。

生徒たちは、現在の流行を取り入れつつ、その時の季節にあった自分の好みの服をデザインすることができた。しかし、似たような色・柄や形を用いている生徒も多くいた。そのため、アパレル業界で毎年かつ季節ごとに作り出される流行の仕組みについて説明すると、実感を伴って理解している様子が見られた。

【資料1】生徒の作品



(イ) テーマ「制服には流行があるのか」について考える。

制服と普段着を比較して、ワークシートに自分の考えを書き出した。その後、一つの考えを一枚の付箋に記入し、付箋を利用しながらグループで意見交換を行った。グループとしての考えをまとめて、クラス全体に向けて発表をした。

「制服には流行がある」と考えた生徒が3割程度いた。主な意見は以下のとおりである。

【「制服には流行がある」と答えた生徒の意見】

- ・昔は男子が学ランで、女子がセーラー服だったけど、今は男子も女子もブレザーを着るようになったから、制服にも流行はあると思う。
- ・制服を私服として着る人も多いから、今風でないとダサい。

### 【「制服には流行はない」と答えた生徒の意見】

- ・流行にのると、長い期間着られなくなってしまうから制服に流行はない。
- ・そもそも制服は流行に左右されないものである。

制服は学校の歴史でもあると考え、長く次の世代に引き継ぐものとする生徒と、よりおしゃれなものを着たいという気持ちから、制服も時代に合わせてデザインを変えていく必要があると考える生徒とで意見が分かれた。どちらの考え方も大切であると助言した。

4時間目には、「衣生活の健康と安全」について考えさせた。テーマを「衣服圧が骨格や内臓に与える影響」と「制服を着崩すことによって起こり得る健康障害」の2点とした。付箋を利用して考えを引き出し、グループ協議の際も付箋を基に全員が発言できるように工夫した。付箋記入のルールとして、一つの考えを1枚の付箋に書くこととした。生徒の活動は、以下のとおりである。

- ① 「衣服圧が骨格や内臓に与える影響」についての考えを付箋に書き出す。

衣服に締め付けられることで起こった（起こる可能性のある）事柄を、これまでの経験を基に考えるよう促した。

- ② 「制服を着崩すことによって起こり得る健康障害」についての考えを付箋に書き出す。

制服を着崩したことで体調不良などが起こったことがないか（体調が振るわない様子を見たことはないか）、これまでの経験を基に各自に考えるよう促した。

- ③ 付箋からワークシート No. 1 に自分の意見を記入する【資料2】。

- ④ 付箋を用いて意見を出し合いグループとしての意見をまとめる。

- ⑤ クラス全体に向けて発表し、考えを共有する。

活動全体を通して、自分の考えをできるだけ多く付箋に書き、発言するよう言葉掛けを行った。また、付箋を利用して全員に発言の機会を与えたため、消極的な生徒にとっても意見を出しやすい雰囲気となった。



(グループワークで意見をまとめている様子)



(発表の様子)

【資料2】

ワークシート No. 1

☆3 衣服圧が骨格や内臓に与える影響を考えてみよう。

自分の意見	班での意見
-------	-------

他の班の意見
--------

☆4 制服を着崩すことによって起こり得る健康障害を考えてみよう。

自分の意見	班での意見
-------	-------

他の班の意見
--------

〈グループ発表の内容〉

☆3 衣服圧が骨格や内臓に与える影響を考えてみよう。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・絞めつけられて苦しくなる。</li> <li>・服装によって体型が変わる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着圧の靴下を履いて1日生活したら、2～3日足の色が青っぽくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨の形が変わる</li> <li>・骨の成長が妨げられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腸が圧迫されて便秘になる。</li> <li>・血流が悪くなり冷え性になる。</li> </ul>
--	--	--	---

☆4 着崩した制服によって起こり得る健康障害を考えてみよう。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・スカートやズボンの腰ばきは、内臓を冷やす。</li> <li>・冷えから体調を崩し風邪をひく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スカートのウエスト部分に、あせもができやすくなる(重なりが多く赤くなる)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スカートを折りすぎると、お腹が苦しく(痛く)なる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬に胸元を大きく開けていると、冷えて風邪をひく。</li> </ul>
--	--	--	---

以上が主な意見である。昔の衣服圧の例(コルセットやてん足など)を挙げて説明し、「☆3 衣服圧が骨格や内臓に与える影響」を考えさせたため、少し極端な意見も見受けられた。

「☆4 着崩した制服によって起こり得る健康障害」については、女子が制服を着崩したことによる健康障害についての意見が多く、男子の制服を着崩すことによるものについては、ほとんど意見を出すことができなかった。

イ 5時間目の授業 【授業の展開の工夫】【言葉や概念などを用いて考察させる活動】

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	○本時の学習内容を把握する。	
	○制服着用時の寒さや暑さへの対策などから、被服の保健衛生的機能を理解す	○前時の学習内容を振り返り、制服着用時の暑さや寒さへの具体的な対策を考えさ

<p>展開</p>	<p>る。</p> <p>○被服の社会的機能を考え理解する。</p> <p>○被服の社会的機能を踏まえて、制服の着装的在り方について考える。</p> <p><b>テーマ「制服の着こなしを考えてみよう！」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレインライティングを用いて班で意見をまとめて発表する。</li> <li>・プレゼンテーション用ポスターを作成する。</li> </ul>	<p>せて、被服の保健衛生的機能を理解させる。</p> <p>○多様な職業の制服を取り上げて、被服の社会的機能を具体的に説明する。</p> <p>○被服の社会的機能の観点から、制服の着装的在り方（なぜ着崩してはいけないのか）を生徒自身に考えさせる。</p> <p>○制服の着装から青年期の日常生活における着装についても考えるように促す。</p> <p>○ブレインライティングを用いることで、班員全員に発言の機会を与え、話し合いに参加させる。</p> <p>○机間指導を行い、意見が出ていないグループへは助言をする。</p> <p>○ポスターを作成することで、グループ内の意見をまとめさせ、他者に分かりやすく伝えられるようにさせる。</p>
<p>まとめ</p>	<p>○次時の学習内容の概要をつかむ。</p>	

5時間目は、盛りだくさんの内容をスムーズに展開できるように工夫した。前時に引き続きテーマを設定して言葉や概念などを用いて考察させる活動を行った。その際、付箋を利用した。生徒の活動は、以下のとおりである。

- ① 制服着用時の防寒、防暑対策について具体的に考える。  
前時の学習内容を参考にさせるため、ワークシート No. 1 【資料2】の記載内容を確認させた。
- ② 被服の保健衛生的機能について理解する。
- ③ 被服の社会的機能について考える。  
多様な職業の制服の写真を提示しながら、意見が出るように促した。
- ④ 被服の社会的機能について教科書で確認する。
- ⑤ 「制服の着装的在り方」について考える。  
テーマを「制服の着こなしを考えてみよう！」とし、ワークシート No. 3 【資料3】を用いて制服および日常生活における青年期の着装について、制服の着装を基に考えさせた。視点として、次の4点を提示した。  
  - Q1 ネクタイをきちんとしてはいけないのはなぜ？
  - Q2 短いスカートはどうしていけないの？
  - Q3 ズボンの腰ばきはどうしていけないの？
  - Q4 シャツの裾だしはどうしていけないの？
- ⑥ 各視点について付箋を用いてグループで意見を出し合い、グループの意見をまとめて発表をする。  
生徒は、校則があるから制服を着崩してはいけないと考えていた。授業を通して、制服の着装について考えさせたことにより、互いの考えをグループ内で出し合い、同調したり反論したりする活動を通して、新たな視点で考えをまとめ、発表することができた。さらに、授業後もグ

ループごとの意見を確認しながら意見交換する様子を見ることができた。これらのことから、制服および日常生活における青年期の適切な着装に対する意識を高めることができたと考える。

【資料3】

ワークシート No. 3 制服の着こなしを考えてみよう！	
Q 1 ネクタイをきちんとしなくてはいけないのはなぜ？	
A 1	補足
Q 2 短いスカートはどうしていけないの？	
A 2	補足
Q 3 ズボンの腰ばきは どうしていけないの？	
A 3	補足
Q 4 シャツの裾だしはどうしていけないの？	
A 4	補足

【班の発表内容】

Q 1 ネクタイをきちんとしなくてはいけないのはなぜ？			
・しっかりとした印象を与える。	・見栄えをよくする。	・身だしなみへの気遣いの度合いがまわりの人に分かる。	・ゆるめているとだらしく見える。
Q 2 短いスカート丈はどうしていけないの？			
・痴漢などの被害にあいそう。	・学校という場にあわない。TPOを考える。	・折ったところがしわになり、だらしく見える。	・まわりの人に迷惑をかける。見ていて気分がよくない。
Q 3 ズボンを腰ばきするのはどうしていけないの？			
・ウエストからパンツが見えてよくない。見たくない。	・裾がぼろぼろに破けていて、だらしく見える。	・足が短く見えて不格好に見える。	・裾が地面について不衛生。
Q 4 シャツの裾だしはどうしていけないの？			
・上着着用時には全体のバランスが崩れる。	・身だしなみへの気遣いの様子が分かる。	・清潔感がない。スッキリとした印象を与えない。	・だらしく見える。



(発表後、グループワークで作成したポスターを確認している様子)

## (6) 単元終了後の生徒の意識

### ア 本校の制服についての意識

単元終了後に行ったテストの中で、これまで学んだことを踏まえて、本校の制服について「着心地」「デザイン性」「自分の考えや思い」をキーワードとして意見を記述させた。

制服についての意見としては、気に入って着ているとの意見が多かった。次に、シャツの色について述べるものが多かった。汗じみが目立つので夏に着用するのが嫌だという意見と、青いシャツが本校の特徴なので気に入っているという意見とで分かれた。下着を着用することで汗じみ対策ができることを授業で伝えたが、実践してみるという意見を述べた生徒も見られた。また、ネクタイについて意見を述べるものも多かった。現在のホック式タイプがよいという意見もあったが、ホック式タイプではなく通常のネクタイに変えて欲しいという意見も多数あった。理由としては、ネクタイの結び方を知らないまま社会人になることへの不安を述べていたものが多かった。ネクタイの結び方の授業を検討する必要がある。

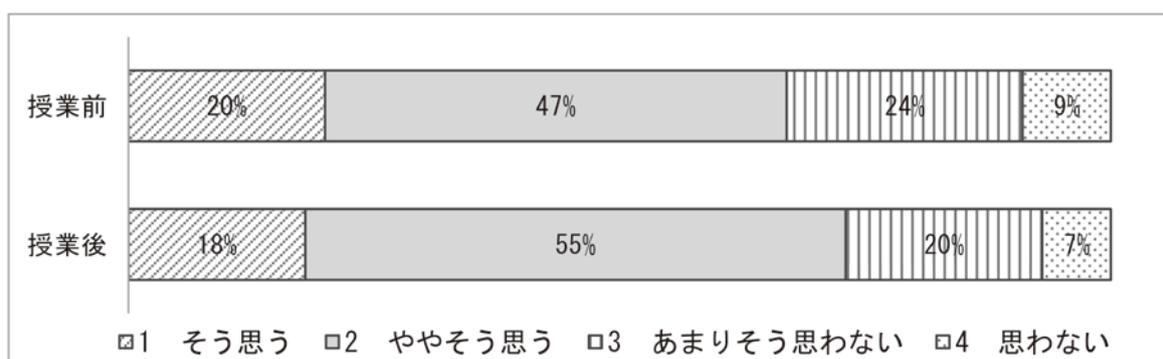
#### 【主な意見】

- ・僕はこの高校に来て良かったと思います。その理由は、制服が中学校のものより着心地よく着ていて過ごしやすいからです。デザインも、他の学校のものより気に入っています。ワイシャツが水色なので、汗など目立ちますが、ワイシャツの中に肌着を着ればそんなに目立たないことを授業で知りました。この夏、肌着を着て汗じみの予防をしていけたらと僕は考えています。
- ・私はこの高校の制服はカッコいいデザインだと思います。デザインだけでなく、着やすいし、授業で機能性があることも知りました。ただ一つネクタイを変えて欲しいと思います。本校のネクタイはホックで早く簡単にとめられますが、私はちゃんと縛る方がいいです。将来大人になった時に、ネクタイの縛り方がわかるよう、今から身に付けておきたいからです。
- ・私がこの高校を受験した理由の一つは、制服がかわいくて自分も着たいと思ったからです。他校とは違う青い色のシャツを私はとても気に入っています。また、自分で縛るものと思っていたネクタイが、挟むだけで楽につけられるところもよいと思います。さらに、私は夏のスタイルも好きです。シャツが薄地になっていること、着ているときちゃんと風通しがあること、見た目に涼しげな色であることがよいと思います。オーバーシャツの機能性も知ったので、夏は半そでを着ようと思います。制服はあと2年間しか着られないから、大切に着たいと考えています。

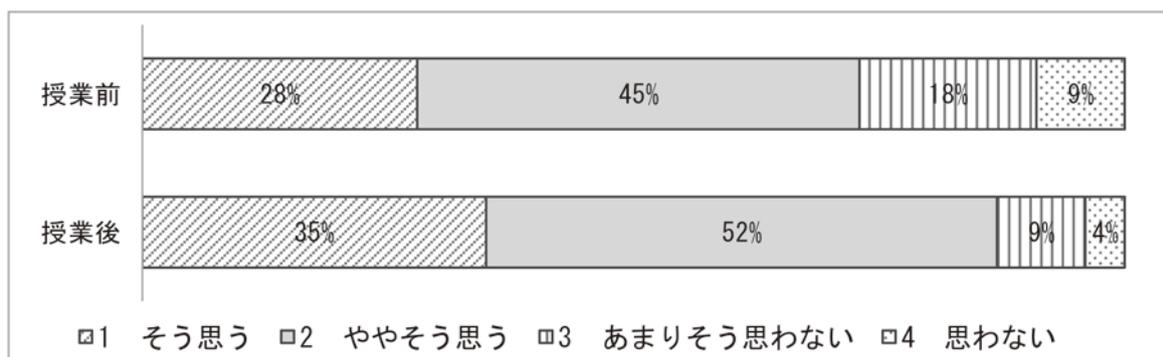
## イ 事後アンケートによる変容の確認

単元開始前と同じく衣生活分野に関する興味・関心と日常の行動についてのアンケートに加えて、「制服の着こなしで気を付けていること」と「授業の感想」を質問し、その実態を把握した。対象は第1学年の生徒79名である。

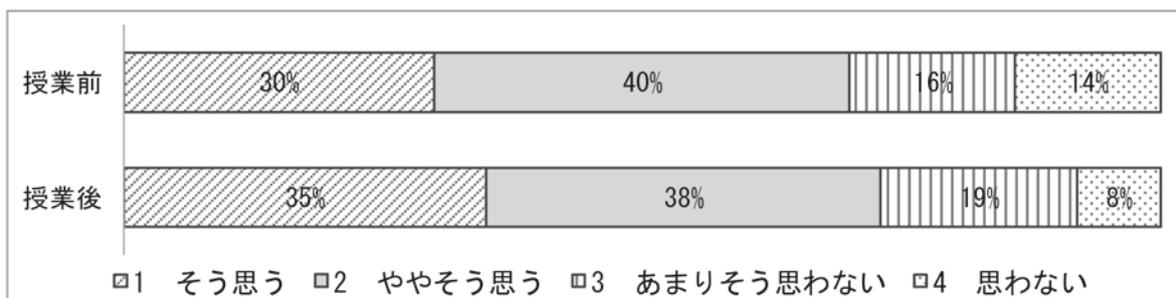
大きく変化したのは、質問6、7、8、9の結果である。授業を通して「被服の素材」「加工や性能」「被服の機能」「既制服の購入」に興味・関心が高まったことを示している【図7、8、9、10】。これは、制服を題材とした被服に関する学習を通して、被服をデザイン重視で選んでいた生徒たちが、被服材料のもつ性能や特徴などを理解し、取り扱い絵表示を見て被服を選ぶことの大切さを学べた結果であると考えられる。次に、本事例とした「着装」についての質問3、4、5では、「制服の着こなし」「制服の着崩し」に関して意識が高まった結果が得られた【図4、5、6】。また、質問11の「自分で制服の管理・手入れをしている」に関しては90%の生徒が「そう思う」「ややそう思う」と回答した【図12】。着装時に気を付けていることと着装後に維持管理のために自分で行っていることについての具体的な記述も多数あった。さらに、制服を題材として行った単元の学習を通して、質問1「被服分野への興味・関心」、質問2「被服をデザインすることやコーディネートをする事への興味・関心」も高められた結果を得ることができた【図2、3】。結果は以下のとおりである。



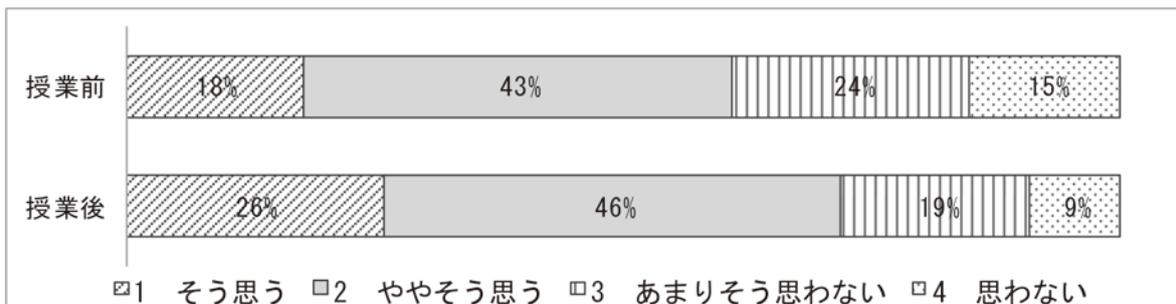
【図2】質問1 被服分野に興味・関心がある



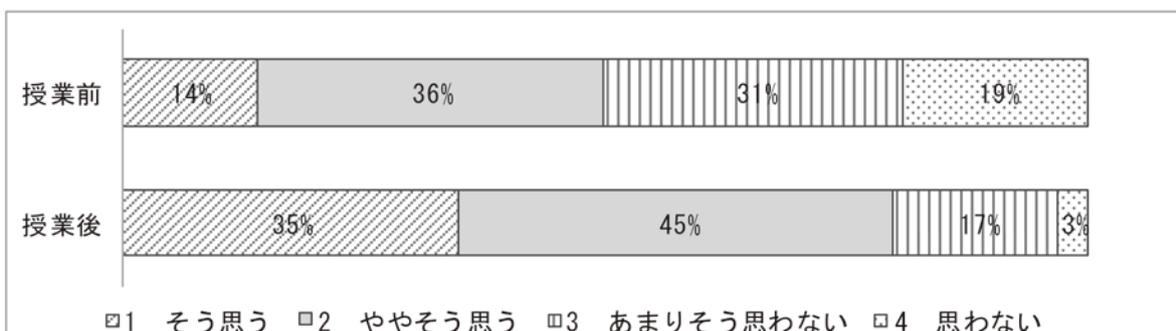
【図3】質問2 被服のデザインやコーディネートに興味・関心がある



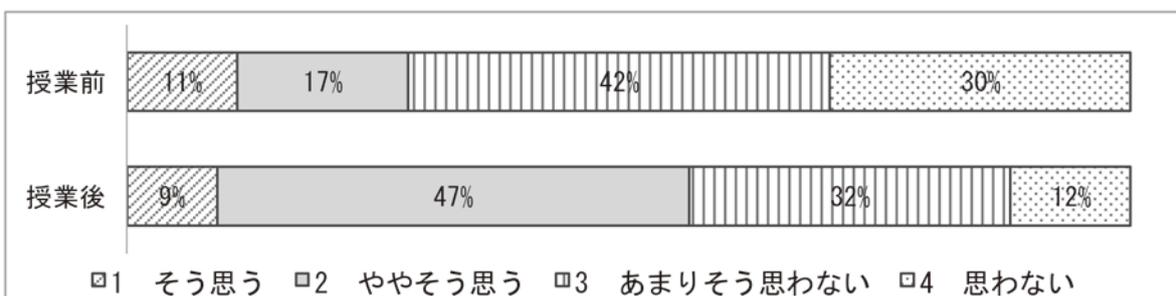
【図4】質問3 制服の着こなしで気を付けていることがある



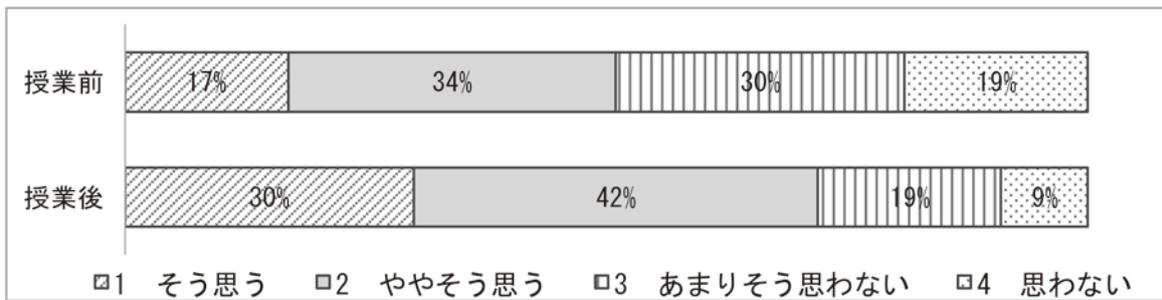
【図5】質問4 体調を崩さないような被服の着方をしている



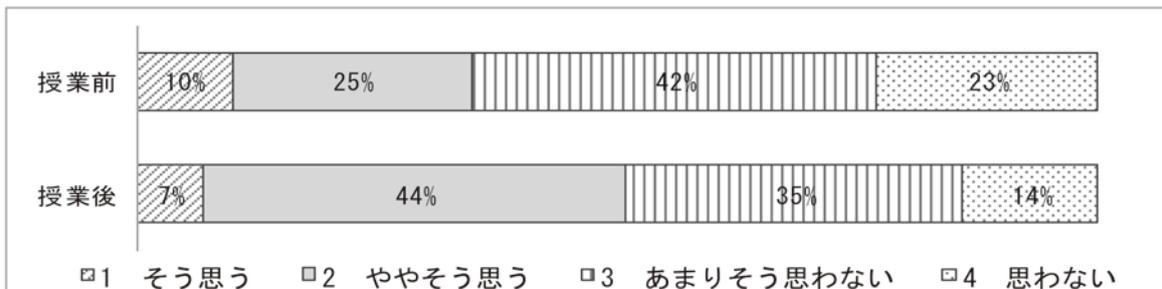
【図6】質問5 制服を着崩すことについて考えたことがある



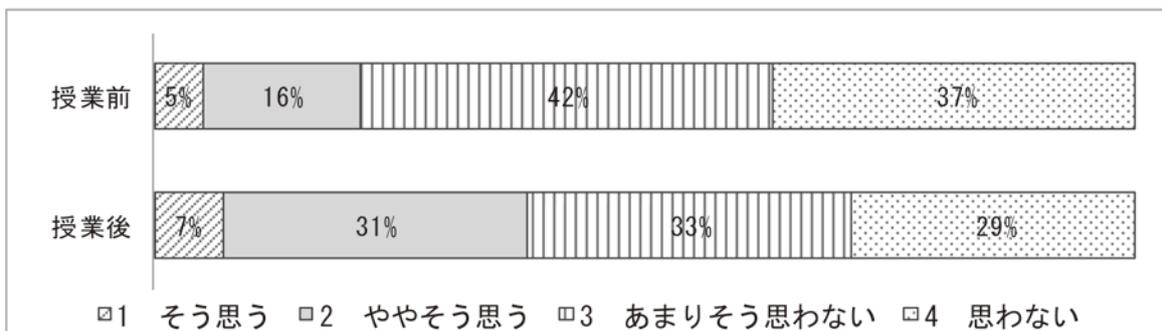
【図7】質問6 被服の素材について興味・関心がある



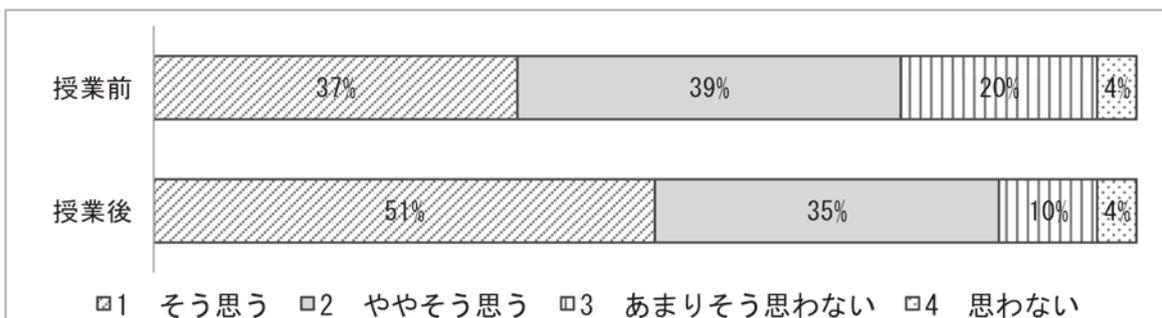
【図8】質問7 下着の着用目的を考えたことがある



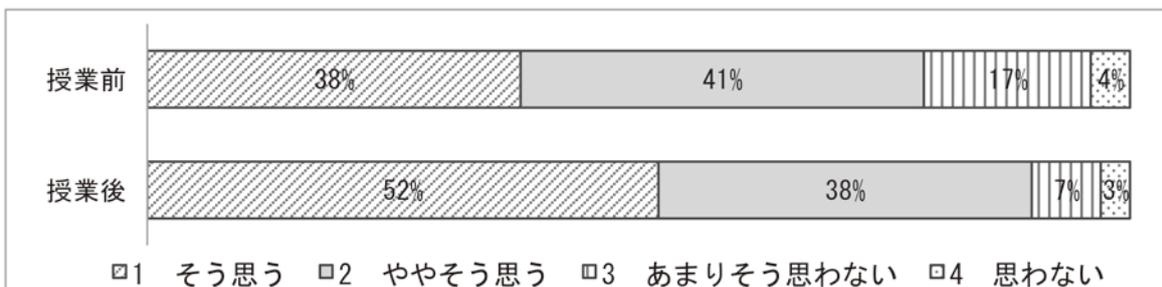
【図9】質問8 被服の性能や加工について興味・関心がある



【図10】質問9 既製服を購入する際、気を付けていることがある



【図11】質問10 被服素材によって洗い方を変えることを知っている



【図12】質問11 自分で制服の管理・手入れをしている

### 「制服の着こなしで気を付けていることがある」に関する記述内容

- ・清潔に見えるように、着崩さず汚さないようにしている。
- ・腰パンにしないようにして、ズボンの裾を汚さないようにしている。
- ・スカートのプリーツがとれないようにしている。
- ・きちんと着た方がかわいい制服なので、スカートの長さを調節しない。
- ・制服に汚れがないか確かめてからハンガーに掛ける。
- ・しわにならないように帰宅後ハンガーにかけたり、時々アイロンをかけたりする。

### 「授業の感想」に関する記述内容

- ・服はただ着るだけだと思っていたけど、たくさん大事な役割があることを知った。
- ・服にはそれぞれの役割があり、またそれぞれ違った管理の仕方があることを学んだ。
- ・服には取り扱いの方法がいろいろあってどれも違うから大変だなと思った。
- ・服は全部洗濯機で洗えるものだと思っていた。洗えないものもあることが分かった。
- ・今までサイズしか見ないで買っていたから、失敗することが多々あった。授業を受けてから、前よりは失敗しなくなり学んでおいて良かったと思った。
- ・制服はなぜ着崩してはいけないか、自分たちで考えることができたし、詳しく知ることができた。それを踏まえた上で、これから高校生らしく制服を着ていきたい。
- ・授業を受ける前は、被服にはあまり興味がなかったけれど、授業を受けてからは既製服・制服に興味をもつようになりよかった。

## 3 まとめ

### (1) 成果

本事例では、制服という生徒にとって最も身近な題材を用いて、生徒に衣生活に関して考えさせ、意見をまとめて発言させる活動を行った。毎時間自分の考えをワークシートに記入させ発言させることを試みた。これらを繰り返すことにより、生徒たちは徐々に主体的に考えて自分の意見をもつことができるようになった。教員は、生徒が積極的に発言できるよう、机間指導の中で一人一人の考えを認めるような声掛けを行い、発言しやすい雰囲気をつくることに努めた。また、様々な意見をクラス全体で話し合い認め合ったことで、生徒が他者の意見に対し興味・関心を持ち聞く態度を育むこともできた。グループワークでは、他者の考えを聞き多様な意見を集約して発表する活動を行ったが、少人数グループでの活動は消極的な生徒でも発言しやすいものとなったため有効なものとなった。さらに、このような活動を行った単元終了時のアンケートの感想からは、「被服への理解の深まり」「購入の際の注意」「着装」に関する意識の変化を確認することができた（上記「授業の感想」に関する記述内容の下線部）。これらのことから、被服に関する理解を深め、主体的に衣生活を営む態度を育むことができたと考える。

### (2) 課題

- ① 青年期の着装については、生徒がこれからも考えていかなければならないものである。これからは授業の中で取り上げ、更に意識を高めたい。
- ② グループワークでは、今後はそれぞれに役割を与え、話合いのスキルを身に付けさせ、より積極的な話合いとなるようにしたい。
- ③ 本事例を発展させ、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動として取り組ませ、主体的に衣生活を営む態度を更に育んでいきたい。